

環境エンリッチメントの提供に関するアンケート結果

○近藤圭佑, 塚田仁次, 中村雅之
(マリンワールド海の中道)

昨今、動物福祉への社会的関心が高まっており、飼育動物へのエンリッチメントの提供は飼育施設の責務とされている。日本動物園水族館協会においても、動物福祉チェックリストが開示され、環境エンリッチメントの実施、記録、評価についてのチェック項目が活用されている。しかし、各施設の実施状況を体系的にまとめた報告はない。そこで、水棲動物に対する環境エンリッチメントの提供状況や事例の共有、動物福祉向上のための施策の検討を目的に、Google forms を用いて日本動物園水族館協会加盟の施設に対しアンケート調査を実施した。83 施設から回答があり（回答率 59.3%）、うち水棲動物（鯨類、アシカ類、アザラシ類、海牛類、ラッコ、カワウソ、ホッキョクグマ、ペンギン、海鳥）を飼育している施設は 82 施設であった。アンケート調査の結果、海鳥以外の種では半数以上の施設がエンリッチメントの提供を実施していたが、その割合には種差があった。また、提供するエンリッチメントの内容に変化をつけている施設は全体の 61.3%であったが、内容の変化の有無についても種差があり、取り組みが進んでいる種と進んでいない種がいることが明らかになった。また、エンリッチメントの提供後の行動変化の評価を実施している施設は全体の 32%に留まっていた。今後は各施設がエンリッチメントの提供に工夫を重ね、その知見を集積、共有することで、全国的な取り組みの強化を図っていくことが重要だと考えている。